

年間行事予定

- ◎1月13日(金)
成道会(じょうどうえ)
釈尊がお悟りを開いた事に因んだ行事
- ◎1月15日(日)
懺法会(せんぼうえ)
観音さまに懺悔と安泰を祈願
- ◎1月17日(火)
初観音講
- ◎2月11日(祝日)
新福寺大般若 ※祈願申込書を配布
- ◎2月15日(水)
涅槃会(ねはんえ)
お釈迦さまのご命日、大涅槃図展覧
- ◎3月14日(火)
春季巡教(しゅんきじゅんきよう)
本山巡教師ご法話、涅槃堂総供養
- ◎春分の日
お接待 どなたでも参加できます
三川各地、お寺は観音堂にて開催
☆お菓子のお接待
- ◎5月5日(祝日)
降誕会(ごうたんえ) 釈尊の誕生日
(☆山門にて甘茶接待)
- ◎6月下旬
新亡供養(しんもうくよう)
本山妙心寺より直接ご案内がございます
- ◎8月1日〜14日
お盆のお参り
- ◎8月16日(水)
山門大施餓鬼(さんもんだいせがき)
- ◎12月31日23時半〜1時
除夜の鐘
- ◎毎月17日
観音講
- ◎御講当番 亀王
- ◎お寺で婚活 吉縁会
年4回を目途に開催中

祝 米寿

数えて米寿(満87歳)をお迎えの方はお寺までお知らせください。大本山妙心寺管長猊下よりご祝辞と記念品がございます。

修理箇所報告

参道の改修、鐘楼横に照明を新設、西側樹木の伐採、本堂前庭の改造をおこないました。

おしらせ

年賀状を辞める事に致しました。失礼お許し下さい。

あとがき

▼娘から「お父さんお仕事行かないで」と言われました。寺を最優先していた自分を反省した次第です。▼日々成長を遂げる子に期待を寄せると共に先に寿命を迎えるであろうために無常の想いを寄せました。一期一会と申しますが、この時程それを痛感したことはありません。▼ある人にその事話すと、明日死ぬ訳でも無いのに一期一会とは大袈裟だど一笑に付されたのですが。▼期待感と併せて人生残り時間少なしと無常観を持つことは意欲に繋がると思っております。

長勝寺報

巻頭言

戦争は絶対にしてはならない。子供でも解るのに、ウクライナではその愚行が平然と行われています。亡くなった方々とそのご家族の悲しみ、寒さに震える方や恐怖を抱く方の事を思うと、深い悲しみが離れません。

同じ様な事が起らぬようにしなければなりません。多様な価値観がひしめき合い混沌とした現代にこそ、未来を正す道として、人が人である為の道として、すべての存在に平等の価値を見出し、生命の尊厳を説く仏教思想が必要なのではないでしょうか。

私が修行神戸時代を過ごした祥福寺では、いつの頃からか戦没者に対し「彼我戦病没者」という表現を用い、かつての敵、味方を分け隔てること無く平等に供養を行ってきました。一方的な主張を正論と言いかえれば、ずいぶん聞こえは良くなります。しかし、正論ばかり振りかざして相手を憎んでも争いが絶えないことは明白です。自分も他人も平等に人権を持ち、誰にも侵されざる

第 14 号
令和 5 (2023) 年
新 春

長勝寺
ホームページ



発行所

〒八七〇一〇一四二

大分市三川下二丁目六番二十三号

TEL 〇九七一一五五八八四二八七

臨済宗妙心寺派 長勝寺

E-mail tysyoji.orit@gmail.com

命を頂いております。私たち仏教徒は暴力に訴えず、これ以上平和から遠ざかる事が無いよう、努力に努めて参りたいものです。恨みは恨みによって消えません。長い時間が掛かるでしょうが、ウクライナ、ロシア両国の戦没者をお互いに供養し合う日の来ることを信じます。

旧統一教会の諸問題が取りざたされています。何十年も前から警鐘が鳴らされておりましたが、今更という感否めません。教義をとにかく言うことはしませんが、救済を求めて迷う人に対し、誰もが持つ不安心を悪用している事に根深さを感じ憂慮しています。

落ち着くことを「腹が据わる」と表す事があります。自分自身の救済は壺を買わなくても、自分の中の佛がちゃんと救ってくれます。どうしようもない時にこそ坐禅の出番です。坐禅して身体を調え、呼吸を調えれば、揺るぎのない心が得られます。それを男性でも女性でもない仏性と申します。何が起っても不思議ではない今。何事にも動じない境涯を大切にしたいものです。



加工中の木板。上等なケヤキでできています。

表に「生死事大 無常迅速 光陰可惜 時不待人」などと記します。時間はあつという間に過ぎ、人生は夢のようにはかない。だから怠る事無く、時を惜しんで日々を過ごそう。という意味です。この音を鳴らす度にそれを心掛けようと思います

木板を新調します

木板とは、木の板を叩いて使う禅宗寺院の鳴らし物です。今では修行道場以外で目にすることは中々ありません。長勝寺にも古くて使えなくなった木板が存在しますが、ひび割れて使えない為、新調することになりました。

九州東教区六部主催の法話会

11月16日に長勝寺で近くのお寺合同の法話会が行われました。人数制限が掛かった会でしたので、総代さんのみの出席となりました。人が大勢集まる行事も久しぶりです。本堂にて2時間ほどでしたが、今後の行事運営にとって大変参考になる1日となりました。



突き初めの様子。左より発起人の江藤鶴喜氏、奉賛会会長河村博氏、住職香泉壽山。取材に対し「寺の戦後もやっと終わった」との感想を述べている

長勝寺だけでなく、多くのお寺の梵鐘は金属回収令で昭和18年に砲弾などにするため供出を余儀なくされました。現在の鐘は、昭和53年、故江藤鶴喜氏の「今までやってこれたのは先祖や社会のおかげ。お寺の鐘を復興して感謝の気持ちを表したい」という考えがきっかけとなり、長勝寺開山450年忌奉賛会会長だった故河村博氏も協力。檀信徒一丸となって寄進して再製造したものです。鐘楼も宮崎建設、故宮崎久氏の協力を得て完成。35年振りに鐘の音が鳴り響いた時、自身が経験した戦禍や苦勞、戦没者を慮ってか、感極まりむせび泣く姿もあったそうです。「出典 大分合同新聞 当時の記事」

シリーズ 長勝寺の至宝

「梵鐘」



祐山忌拙語
長勝山中傑出賢
度生愛語口唇禪
莫言佛法皆如夢
遺訓常載忽七年

先師祐山和尚の七回忌を命日3月6日に厳修致しました。早いもので丸6年です。若干20代で高等布教師という難関に合格し布教につとめ、その傍ら、保護司や民生委員、PTA会長などを歴任しました。お話が上手。綿密な性格でしたが晩年は病氣の影響もあつてか、肩の力が抜けた感がありました。禅門では法事の際漢詩を作つて供養しますが、どうも肩に力が入つた内容になってしまいました。計らいのないさりとした詩が書けぬうちは半人前。精進の糧です。

祐山和尚七回忌



本堂く観音堂までは今年中に着工します。微力ながら和尚も職人さんのご指導を仰いで加勢し、心を込めて作ろうと思います。乞うご期待。

参道を改修しました

「ガタガタ歩いて通りにくい」「つまづいた」という声を頂いておりました参道ですが、この度大改修を施し、左の写真のようになりました。既存の材料を活かして道幅を広げ、勾配を付けることで水はけを改善しています。まずは本堂までの区間を先行して改修しました。

未明の地震

1月22日未明、震度5強の地震が発生。皆さん被害はありませんでしたか？お寺では壁の一部が少し欠損したり、石塔が倒れたり、納骨堂の仏具が一部散乱したりしていました。幸い大きな損害は免れました。もし、庫裡の屋根を改修していなかったらどうなっていたか。不幸中の幸い、危ないところでした。